

平成 17 年 6 月期

## 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 17 年 6 月 30 日  
横浜市衛生局感染症・難病対策課  
TEL045(671)2462  
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課  
TEL045(754)9816

### 今月のトピックス

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑の発生が引き続き多い  
手足口病、ヘルパンギーナが増加傾向で、夏の流行が予測される

平成 17 年 5 月 16 日から 6 月 26 日まで(第 20 週から第 25 週まで。ただし、性感染症については平成 17 年 5 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

#### 平成 17 年 週 月日対照表

第 20 週	5 月 16 ~ 22 日
第 21 週	5 月 23 ~ 29 日
第 22 週	5 月 30 日 ~ 6 月 5 日
第 23 週	6 月 6 ~ 12 日
第 24 週	6 月 13 ~ 19 日
第 25 週	6 月 20 ~ 26 日

- 咽頭結膜熱**：第 25 週では定点あたり 0.58 と微増してきています。区別では、港南区で第 19 週から 1.0 以上が続いており、第 25 週は 3.8 とかなり発生が多いです。昨年と一昨年に流行していますし、全国的にも引き続き増加傾向にありますので、注意が必要です。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**：第 25 週では定点あたり 1.69 で増減はありますが、引き続き発生が多いです。第 19 週以降 1.54 ~ 2.17 と、ここ 6 年間では一番多い状態が続いており、流行に注意が必要です。
- 水痘**：第 19 週に定点あたり 2.56 と 2 をこえ、増減はあるものの第 25 週も 2.65 と多い状態が続いており、今後の動向が注目されます。
- 手足口病**：例年夏に発生が多く、第 25 週は定点あたり 1.86 と昨年の 0.31 よりかなり多いです。第 23 週が 0.76、第 24 週が 1.08 と、増え方が大きくなってきており、夏の流行に備えて注意が必要です。区別では、泉 6.0、瀬谷 5.7 と発生が多いです。
- 伝染性紅斑**：第 25 週は定点あたり 1.30 と今年の最大値になっており、引き続き多く発生しています。港南 3.6、戸塚 3.2 と発生が多いです。第 25 週に神奈川県西部では、小田原 7.2 と流行が続いており、注意が必要です。
- ヘルパンギーナ**：例年夏に発生が多く、第 25 週は定点あたり 3.56 と昨年の 1.26 よりかなり多いです。第 23 週が 0.86、第 24 週が 1.85 と、増え方が大きくなってきており、夏の流行に備えて注意が必要です。全国的には第 12 週以降増加が続いており、神奈川県(横浜、川崎を除く)でも第 25 週は定点あたり 3.28 と増加しています。

7 麻しん：昨年より麻しん患者は激減しており、今年も定点あたり 0～0.03 で、時々散発が見られる程度です。今回は、第 22 週に南区、旭区で各 1 人、第 25 週に青葉区、戸塚区で各 1 人の報告があり、今年に入っの患者報告数の合計は 6 人となりました。

平成 17 年 週 月日対照表	
第 20 週	5 月 16～22 日
第 21 週	5 月 23～29 日
第 22 週	5 月 30 日～6 月 5 日
第 23 週	6 月 6～12 日
第 24 週	6 月 13～19 日
第 25 週	6 月 20～26 日

8 性感染症：性感染症は、診療科でみると産婦人科系（産婦）の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系（泌・皮）の 15 定点からの報告に基づいて集計されています。5 月は、性器ヘルペスウイルス感染症は引き続き女性が多く、その他では男性の方が多く報告されています。合計については、性器クラミジア感染症と性器ヘルペス感染症は、昨年より多くなっています。

2003 年の秋から約 1 年間、ある県の 13 の高校に在籍する 1～3 年生の無症状の男女約 5700 人を対象にした、厚生労働省の研究班による大規模スクリーニング調査が実施されました(今井博久・旭川医科大助教授ら)。尿を検体として PCR 法により診断、匿名の質問票に回答してもらい、解析数は約 3200 人でした。性交経験があったのは、男性 495 人(35.1%)、女性 827 人(46.7%)で、このうちクラミジアに感染していたのは、性交経験のある男性の中で 7.3%、女性 13.9%で、合計では 151 人で 11.4%と 1 割以上という結果になりました。

横浜市の 5 福祉保健センターと夜間・土曜日 HIV 検査で同時に実施しているクラミジア検査については、2004 年度の集計では、男性 1478 人が受診し 316 人(20.7%)が血液検査で IgG 抗体が IgA 抗体のどちらかが陽性で、女性 662 人が受診し 279 人(42.2%)が同様に陽性でした。受診者の年齢は、男性 16～79 歳、女性 13～69 歳で、男性は 30 代が女性 20 代が一番多く受けていました。陽性者の最年少は、男性 16 歳、女性 14 歳で、性感染症の低年齢化がうかがわれます。

妊婦検診において正常妊婦の 3～5%にクラミジア保有者がみられることから、性器クラミジア感染症については、自覚症状のない感染者はかなりいると推測されています。自然治癒することはないため、放置すると、不妊症になったり、たとえ妊娠しても、子宮外妊娠や流・早産になったり、母子感染を起こしたりすることから、感染の可能性があれば検査を受けることがすすめられます。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。  
横浜市衛生研究所ホームページアドレス [URL:http://www.eiken.city.yokohama.jp/](http://www.eiken.city.yokohama.jp/)